

- 1 新しい日常・世相（ウィズコロナ）を捉える
 - ・高い不確実性 ・延期や中止の連続 ・優先順位をもつ質の高い選択肢
- 2 校長は「決断」 教頭は「判断」
 - ・校長の代理・代行 ・孤独（情報が命）
- 3 つかむ
 - ・校区の特色を保護者にどこまで説明できるか（資本、人、施設、道路状況等）
 - ・本質を正しく追い求め、ねらいを定める。
- 4 つなぐ
 - ・どの伝統を、どのように改善するか（選択と集中の具現化を真剣に考える）
 - ・校区の住民に説明責任をもつ
- 5 学校運営（経営）方針 ⇨ 校長の思い
 - ・教頭の言葉として置き換え、教職員に語れるか？
 - ・哲学（自分の信念となるもの） ⇨ 私は「道徳」（日本人の不易）
- 6 最適解の軸づくり
 - 「その判断は、人間にとって正しいか？」 ⇨ モラルに照らして
 - 本に頼る ・「教職研修（月刊）」を30代半ばから
 - ・自己啓発書（稲盛和夫、岩田松雄、松下幸之助、出口治明の各氏）
 - 20代の先生方の感性やアイデア
 - 幅広いネットワークをもつ（市・地区教頭会、他都道府県の教頭先生、各種関係団体）
- 7 見識を高める
 - ・教育基本法第1条（教育の目的） 「教育は、人格の完成を目指し、（以下、略）」
 - ⇨ 人間性、人柄
- 8 綴り方教育
 - ・校長室日記 ・作文 ・礼状 ・手紙 ・手書きメモ ・タブレットとのバランス感覚が重要
- 9 危機管理
 - ・本能 ・日々の心構え ・正しい決断（特に命と健康、ベターではなくベスト）
 - ・幸せになるために ・働き方改革の陰に隠れさせてはダメ
 - ・第7、8波への備え（オンライン等）
- 10 ゆとり
 - ・心と体のゆとりに尽きる ⇨ 学校運営の舵取りを担うのは、校長と教頭しかいない。
 - ・正しく見極める

第1部 人をたばねるこころ

◆心の通う、心で結ばれた集団をつくる

経営には、モノもカネも大事だが、いちばん強くて頼りになるのは「人の心」である。だからこそ、心で、結ばれた強固な集団をつくることに焦点をしぼり、人の心をベースとした経営をしていくのである。

第2部 事業を伸ばすこころ

◆正しいことを正しいままに貫く

「人間として何が正しいのか」という一点に基準を置き、あらゆる経営判断を行う。それが、自身にとって、会社にとって、一時的には不利益を被ることがあっても、長い目で見ると、いい方向に導くことになる。

第3部 組織を活かすこころ

◆従業員のモチベーションを高める

人間の欲望には際限がない。だからこそ、物的なもので釣るのでなく、心の内から燃えるような励まし方をすることが大事になる。心に迫り、魂を揺さぶる。魂を目覚めさせ、魂の欲する方向へと全従業員を燃えさせていくのだ。

第4部 未来をひらくこころ

◆合理性と人間性を兼ね備える

独創性を重んじ、模倣ではなく、独自の技術を築き、確立して行くには、人間性においてすぐれていなければならない。極論すると、いくら科学的な才能があっても、人間性に欠落した部分があれば、技術開発は決して成功しない。合理性と人間性が大事なのである。

◆リーダーたちへ - 素晴らしい哲学を確立せよ

世界一になった企業には、どの分野でも必ず素晴らしい考え方をを持ったリーダーがいる。そしてその素晴らしい考え方を共有する集団が、それ相応の企業文化、社風をつくり上げているから、世界一という目標に行き着くことができたのだ。

結びに (河原のおまけ) ～最近、心がけを高くしていること～

◎利他

- ・世 (井波校区、南砺市、富山県) のため人のために尽くすこと
- ・校務助手さんとの朝の会話 「コーヒー、ありがとうございます」 ※ 朝を迎えた奇跡に感謝
- ・一日一回は一人職 (事務室、調理室、ALT、会計年度職員、養護教諭等) の方々とお話
- ・「どうすれば、話してて気持ちが良くなってもらえるか」「嫌な用語をできる限り使わず話そう」
- 「朝の二言目は、ユーモアや昨日のねぎらいから。確認や協議、重たい話はその次」「内容を吟味して話す場所を決めよう」「この話って、根回しがあるな。どの方面に尋ねるか」「いかにして、校区の教育力を高めるか」「謙虚にして奢らず、努力を続ける」「おかげさん。ありがとう！」